

平成24年度 全国女性委員会議報告

- 期日 平成25年2月10日(土)13:00～16:00
- 場所 公益財団法人日本陸上競技連盟 小田急第一生命ビル11階
- 出席者 酒井直美
- 会議報告
 - ・開会挨拶
 - ・講演 「個性を生かす」 ソフトボール元女子日本代表監督 宇津木妙子氏

○選手としての経験

(中)顧問の先生からの「何でもいいから1等賞になれ」という言葉

(高)・キャプテンになり、「怒られ役」

- ・チームメイトを傷つけたことから学んだ

(社)・誰も教えてくれないので、自分で人のプレーを盗む

- ・声を出す、足の速さを生かすことで自分をアピール
- ・仕事の一環で寮のトイレ掃除を毎日2時間
- ・寮母の仕事を通して「みんな違う」ことを学んだ

○監督になって(当時女性監督はいなかった)

- ・チーム理念「強くて愛されるチーム」

{ あいさつ・時間を守る・整理整頓・心をついに・時には犠牲になる
品格を持つ・怠慢や自己中心的な行動は許さない

- ・選手はみんな違う→一人一人の細かな分析を行った上で真剣に向き合う
- ・個々のいいところを伸ばし、欠点は練習で補う
- ・役割分担(個性を生かす、レギュラー以外の選手をどう生かすか)
- ・腹を割って、自分をしっかり持って向き合う

・各陸協からの活動報告・意見発表

①託児所の設置・運営について

岐阜が来年度から設置予定。

東京・鳥取・徳島・大分・長崎は設置経験あり。

②女子競技会について

東京女子陸上競技大会の報告(参加者1352名、女性審判員数80名)

愛知・広島・熊本・大分・鹿児島は女子競技会実施経験あり。

③盗撮対策について

広島・愛知での盗撮対策の報告

④その他 広島の広報誌の紹介

- ・U-19 短距離コーチ田川さなえ先生(京都)より、ジュニア強化について
- ・閉会挨拶(小松女性委員会委員長)
倫理に関するガイドライン、陸連のランナーズ登録の紹介
県の核になって県内の取組を進めて欲しい

女性委員会議出席者～宇津木妙子氏を囲んで～



○女性委員会議に参加して

今会議に参加すると決まってから、宇津木氏の講演をととても楽しみにしていました。選手としての経験の中で学んだこと、監督になってからの選手との向き合い方や失敗談などを語りかけるように話してくださいました。自分の信念をしっかり持つこと、まずは一人一人の細かな分析を行うこと、真剣に向き合うことというのは、これから自分が指導に当たる上でも大切にしていきたいと思います。

各陸協からの活動報告では、託児所についての話題が上がったため、本陸協でのこれまでの活動について簡単に報告をしました。会議が終わった後、岐阜・鳥取・大分の方と、詳しい取組や課題について話す機会を持つことができ、これからの取組に対するヒントをいただくことができました。

今会議には初めて参加させていただきましたが、宇津木氏の講演や、各陸協の取組などを直接聞くことができ、充実した時間を過ごすことができました。長崎国体に向けて、自分達にできることを考え、実行していかなければならないと感じています。